

## 2 「見取りと支援カード」「生活科カード」の活用

座席表や個票を用いた「学習の記録票」や子供たちに書かせる「あのねカード」等を用いることが、一人一人の思いや願いを把握するための有効な手段であることはこれまでの先行研究の中でも明らかです。そこで、本実践ではそれらのよさを生かしながら「見取りと支援の工夫」という視点で改善を加えて活用していこうと考えました。

### (1) 見取りと支援カード ～育てたい姿と支援の重点を明確にしよう～

一人一人の活動の様子や気づきを確かに見取り、個に応じた適切な支援を行っていくために右のような「見取りと支援カード」を活用しました。カードの活用にあたっては、一人一人の実態と育てたい姿・支援の重点を明らかにし、3つの観点に沿って活動の様子や変容をエピソード的に記録できるようにしました。

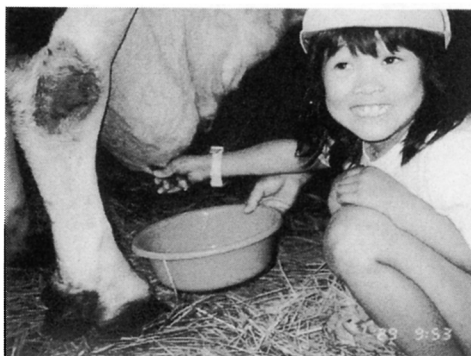
右のカードに見られるように、子供の思いや願いは「巨大なコイを見てみたい。」→「よもぎ団子を作って食べたい。」→「町の名物探しをしたい。」と活動に没頭する中で次々と変化していきました。教師はそれらの変化を観察や対話を通して見取り、カードに記録すると共に支援の重点に基づいて支援を行いました。その結果、子供は自らの気づきのよさを自覚し、次の活動への自信を深めることができました。

### (2) 生活科カード

#### ～自由な表現ができるようにしよう～

子供の思いや願い及び気づきの中には、言葉や行動に表出されないために観察や対話では見取れないものもあります。そのような思いや願い及び気づきを把握するために右のような「生活科カード」を活用しました。活用にあたっては、絵・文・実物の貼り付けなど、各自の好きな方法で表現できるようにしました。

右のカードを書いた子供は、1年生の頃はハムスターもさわれないほど生き物が苦手でしたが、探検活動では牛の乳しぼりに挑戦しました。はじめのうちは怖がっていましたが、グループの友だちのリードや教師の励ましによって積極的に牧場の牛とかかわり、乳しぼりの方法や感想を生き生きとカードに表現していました。



〈牛の乳しぼりに挑戦〉

### 見取りと支援カード

単元名         

話の町をたんけんしよう。	氏名 <u>        </u>
--------------	--------------------

**現在の子供の姿と育てたい姿**

○1年生のころは自信なさそうにする態度が見られたが、徐々に積極的に活動できるようになってきた。地域のこともよく知っている。(鏡が池)  
→チームのリーダーとして他のメンバーの面倒を見て活動できる。

**支援の重点**

○「鏡が池」についての知識をみんなに紹介させることで、本単元についての興味・関心を持たせる。(自信を持たせる)  
○チームのリーダーとしての自信を持たせ、励ましと称賛をくりかえす。

観点	生活への関心・態度・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気づき
月日(曜)	話の町探検を通して、地域の人々や様々な場所とかかわることを楽しもうとしている。	探検で分かったことを自分なりに工夫して表現することができている。	今まで知らなかった話の町の楽しさやすばらしさに驚くとともに、かかわることの喜びを知る。
4/19 (木)	みんなに感心されたが、実際には見つけられなくて残念!	鏡が池に巨大なコイがいることの紹介。身ぶり・声ぶり!	コイはいなかたけとカエルを見つけて、学校のカエルとのちがいを気づく。
5/8 (火)	「うちへ帰っても作ってみたいなあ。」	よもぎ団子の作り方を知り、喜んで作る。	国語の教科書に出てきた「よもぎ団子」が食べられて満足。
5/15 (火)	岳温泉の名物さがい、興味を持つ。 ○温泉、くらがね焼き	探検計画をつくる。くらがね焼チームと名づける。	

### たのしいね せいかつかカード

(6)月(8)日 名まえ( )

え

ぶん

あたしたちは、うつのちがいを  
りをしてきたのだから  
です。うちがすにかかりまし  
た。うしも大きくなると  
かっただです。

じいちゃんもびっくり

8 ふりがえって(みま) もつとやりたいと  
① たのしくかつとできたかな? なのに?  
② おともだちとなおよくできたかな? 花のしゅ  
いをいっ  
う見つける